

全国協議会 ニュース

2010年1月1日発行 第211号

発行所
特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
〒160-0005 東京都
新宿区愛住町23-1
Woody21-9階
TEL.(03)3356-8217
FAX.(03)3356-8637
発行責任者:中野勝博
http://www.marrow.or.jp/
E-mail:office@marrow.or.jp

郵便振替口座
00150-4-15754
銀行口座
三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655

新年あけましておめでとうございます 造血幹細胞移植の新時代に向けて

全国骨髄バンク推進連絡協議会
会長 大谷貴子



新年明けましておめでとうございます。皆様の日頃からのご尽力、ご支援に、心より感謝申し上げます。

心をとつに束ねて、新たな活動の一步を踏み出しました。今この瞬間も病氣と闘っている患者さんが、一日も早く笑顔を取り戻せるように。

厚生労働省
健康局疾病対策課
臓器移植対策室長

皆様の日頃からのご尽力、ご支援に、心より感謝申し上げます。

昨年、9月に嬉しい出来事がありました。ある元患者さんが、多くの仲間祝福されて、二度目の20歳の誕生日を迎えたのです。日本骨髄バンクが出来る前、東海骨髄バンクを介して非血縁者間骨髄移植を受けてから20年目の記念日でした。

元気になった患者さんやご家族、友人たちの笑顔を見ると、つい自分のことのように嬉しくなってしまう。そして、活動を続けてきて良かった、もっといっぱい笑顔に会いたい!という気持ちが大きく膨らんでいきます。

全国協議会も今年、20周年を迎えます。20年、それは、患者さんに元気になってほしいという全国のボランティアの思いと、それを支えてくださった多くの皆様の思いが凝集された歴史です。その思いを受け継ぎ、今一度みんなで

傾向にある中、移植率は約6割にとどまっております。本年も、ドナー登録を更に推進するとともに、より一層のコーディネート期間短縮やドナー安全対策の強化などに努め、ひとりでも多くの患者さんに骨髄移植の機会が訪れますよう、全力を尽くしてまいります。今後もより一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

また、昨年からHLA型検査にHLA-C座検査を追加して実施しているところですが、引き続き、日々進歩する医療技術への対応や、一人でも多くの患者さんが骨髄移植を受けることができるような体制の整備など、造血幹細胞移植対策に全力で取り組んでまいります。

日本赤十字社
血液事業本部長 西本至



謹んで新年のお慶びを申し上げます。我が国の骨髄バンク事業は多くの皆様にご協力いただき、昨年11月には累計登録者数は45万人、有効ドナー登録者数も35万人を超えました。これ

結びに、貴協議会のますますの御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。御健勝、御活躍を心より祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

財団法人骨髄移植推進財団
理事長 正岡徹



新年を迎えるにあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、年間の骨髄移植数も約1,200例となり、HLA-C座検査を開始するとともに非血縁者間末梢血幹細胞移植の導入について検討を進めてまいりました。これらはボランティアの皆様や関係者のご尽力の賜物であり、厚くお礼を申し上げます。しかし、登録患者数は増加する

者の皆様と骨髄バンク事業の伸展のため取り組む所存です。最後に、貴協議会のご発展と皆様のご健勝を祈念して、挨拶とさせていただきます。

日本さい帯血バンクネット
会長 中林正雄



新年明けましておめでとうございます。日本さい帯血バンクネットワークは、平成11年8月に発足してから満10年が経過し、現在11のさい帯血バンクと共同事業を展開しているところ

です。昨年8月には早稲田大学の井深大記念ホールにおいて、設立10周年記念事業を開催いたしました。盛会のうち、皆様のご協力に感謝いたします。最近是一年間に約1,000例近くのさい帯血移植が行われるようになり、骨髄移植と共に、造血幹細胞移植医療を支える重要な治療法となっており、それに伴い社会の期待、そして責任の重大さをこれまで以上に感じております。

今年も、登録受付窓口のより良い環境づくりや、検査体制の充実を図りながら、関係

待つ患者さまのために努力して一層の発展を目指していきたいと思っております。さい帯血バンク事業に対するますますのご理解とご支援をお願いするとともに、新年が皆様にとりまして、より良い年となりますよう祈念いたします。

全国骨髄バンク推進連絡協議会
理事長 中野勝博



謹んで新年のお喜びを申し上げます。平素から全国協議会に対して格別のご指導とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年、患者さんが生きるチャンスを得ることが出来た記念事業「ありがとうキャンペーン」の一環として全国各地でリレー植樹会が開催され、多くの皆様と交流が出来ました。皆様の思いがそれぞれの苗木に伝わり躍進と希望の大樹となることを期待いたします。

本年は、全国協議会設立20周年を記念して様々な企画を立案し20年の歴史を振り返ると共に、ボランティアが係わる造血幹細胞移植医療体制の諸課題解決に向け、関係機関との連携を図りながら、活動を展開してまいりたいと思いま

何分にも経済状況の大変厳しい折ではありますが、皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

第90回理事会報告

12月20日
全国協議会事務局

〈協議事項〉
● 名義後援、承認案件
● 20周年記念事業について
● 箱根駅伝について
● 2011年度全国大会開催場所について
● 職員冬季賞与について
● 学会参加について
● 佐藤さち子患者支援基金の今後について

〈報告事項〉
● 財団法人(常任理事会・P・B・S・C・T委員会傍聴)
● 日赤との意見交換について
● 常勤事務局員雇用について
● プロックセミナー報告

〈今後の予定〉
● 2月21日(日) 第91回理事会
● 3月21日(日) 第92回理事会
● 4月17日(土) 第93回理事会
● 4月18日(日) 2010バイシクルライド

全国協議会では10月初めより全国各地のみなさまにご協力をいただき、「骨髄バンク意識調査アンケート」を実施いたしました。おかげさまで11月末日をもって締め切り、現在、共同実施先である宮城大(仙台市)にて集計・分析を行っています。集計が終わり次第、皆様にご報告し、今後の普及啓発及びドナー登録者のリテンション向上に役立てて頂きたいと思っております。秋のイベント等で忙しい中、多くの皆様にご協力いただき、深く感謝申し上げます。

骨髄バンク意識調査アンケート ご協力ありがとうございました

心からのご寄付に 感謝申し上げます

11月22日～12月18日
豊島区明るい社会づくりの会

現金	100,000円
有明医療大学・東ちづるサイ	現金 11,364円
タクトコーポレーション	現金 10,000円
セルジーン(株)	現金 100,000円
隊龍本気塾 募金箱	現金 47,671円
宮代町百間中学校PTA	現金 20,000円
宮代町百間中学校生徒会	現金 30,711円
ジャパンエナジー戸田・船川	現金 21,367円
ネット	現金 116,000円
ダブルエスタイガー	現金 30,000円
横山 秀夫	現金 10,000円
切明 蹊	現金 3,000円
多々良裕史	現金 5,000円
山田 康博	現金 9,880円
埼玉CML患者	現金 2,000円
塩谷 泰人	現金 1,000円
千葉 充子	現金 5,000円
江上 義和	現金 10,000円
山本 和広	現金 20,000円
櫻井 康司	現金 30,000円
青柳 年和	現金 1,000円
飯島 孝枝	現金 2,240円
匿名	現金 2,630円
匿名	現金 5,000円
匿名	現金 5,000円
匿名	現金 5,000円
匿名	現金 3,000円
匿名	現金 7,000円

●白血病患者支援基金
北九州建設 現金 2,290円
土沢デンタルクリニック 現金 4,416円
ウェダ薬品 現金 50,000円
しらかば薬局 現金 12,225円
すがわら内科 現金 5,000円

●佐藤さち子患者支援基金
医療用コットンキャップの会 現金 200,000円
すみれ薬局 現金 101,205円
本門佛立宗信照寺 現金 5,000円 (敬称略)

活動資金の援助をお願いします
銀行口座
三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655
郵便振替口座
00150-4-15754
特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会

2009年度賛助会員 (11月22日～12月18日)

京野アートクリニック	10,000円
清水 英司	2,000円
改田 耕一	2,000円
池井 元	2,000円 (敬称略)

本当にありがとう お疲れさまでした 村上事務局長 笑顔で「卒業」

20年近くの長期に渡り、全国協議会の大番頭として会計に携わり、またよろず相談所として全国の加盟団体事務局や患者さん・ボランティアさんからの数々の難題、問い合わせに対応して参りました村上美智子事務局員が、12月末日をもって定年退職されました。



大きな穴がぼっかり空くことになり、言葉に言い表せないほど寂しい思いでいっぱいだった。長い間(当初13加盟団体、現在45加盟団体)お世話になりました、ありがとうございます。全国の方より楽しかったこと、嬉しかったこと、残念なこと、悔しかったこと、貴重な体験を頂けたことに感謝いたします。全国協議会事務局も様変わりすることと思いましたが、今まで同様よろしくお願ひいたします。ありがとうございました。



スゴイことになっている! 沖縄県ドナー登録受付状況

国の緊急雇用創出事業の一ツとして、骨髄バンクドナー登録説明員の雇用を「沖縄県

ご覧ください。
そこかしこに、笑顔が溢れています。
神妙な面持ちの方もいらっしゃいますが、なにか思うところがあるのでしょうか。実は、ついさきほどまで、涙を流していた方も大勢いらっしゃいました。感謝の気持ちと惜別の念が、そうさせたに違いありません。
村上美智子さん、ありがとうございます。
「やめないで」コールが響き渡る現場から、中継でお伝えしました!

骨髄バンクを支援する会」が沖縄県から委託を受けた。8月から3名を雇用してスタ

ブロックセミナー報告

九州 解散、休止の一方で 新団体設立も!

11月15日、佐賀県赤十字血液センターで九州地区のブロックセミナーが開催されました。

ところが佐賀開催でも張り切っておられた職持敏子さんが骨折で入院されるといいうハプニングが発生、打ち合わせを兼ねお見舞いに行つた時、職持さんより「どうせ骨折するのならセミナーが終わつた後なら」と、「和気あいあい」と楽しくやって下さい」との伝言がありました。

さて、当日は大分、沖縄を除く各県からと全国協議会の二見理事を含め16名の方が参加しました。会議の内容は、九州骨髄バンク推進連絡会議の解散と熊本骨髄バンク支援会の一時休止の報告があり、話をしましたが、とても寂しいものです。次に新団体設立の報告が発起人で代表に決定した能地敬一さんから「福岡から骨髄バンクの団体を無くす事はできない。骨髄バンク



トしたが、8月の献血並行登録会での登録者数は327名(月間総登録者数339名)、9月は574名(588名)、10月は472名(495名)、11月は277名(303名)と驚異的な数字となった。過去に富山県や福島県等で行われた方法と類似であるが、血液センター職員が調整することにより成果が出せることがわかる。今回、離島等での移動献血では登録会を実施しておらず、全ての献血会場で登録会を実施するとともに登録者は増加するだろう。全国の赤十字血液センターで骨髄ドナー募集を業務として実施するならば、1年間で



8月から雇用した説明員3名

50万人の登録者となる数である。日赤が骨髄バンク事業をもっと主体的に実施していくには解決すべきことも多くあると思うが、ドナー登録一つを取ってみてもよりよい骨髄バンクを目指す方向であると思われる。(上江洲)

東北 日本一大きい西明寺栗のふるさとに集合!

11月14・15日秋田県仙北市の西木温泉クリオンに於いて、東北ブロックセミナーが行われ、26名が研修と討議を行いました。

スポンサーを募って、冊子「白血病と言われたら」を発病間もない患者さんに主治医を通じて配付しているという例や、医療講演会やいのちの輝き展・マモ展、あるいはチャリティライブなど、各地での活発な活動報告に刺激を受けました。輝き展のオープニングイベントでプロレスをやつて大いに盛り上がったという楽しいお話もありました。

また2010年秋に全国協議会20周年事業の一つとして、「ドナー」と患者さんにくさん集まってもらつて、出会えた奇跡を皆で噛み締めて大いに盛り上がる」という



イベントを福島が企画していますが、東北の団体皆でお手伝いして成功させよう、と誓い合つて解散しました。田沢湖・角館はあいにくの雨で残念でしたが、皆で大いに飲み、大いに語り合った二日間でした。(菅)

北海道 患者支援のあり方を 原点から見直すために

11月28日、広い北海道各地から36人が集まり、年に一度のボランティアセミナーが行われました。全国に7人しかいないクリニカルコーディネーターの一人である札幌北極病院の山崎奈美恵さんに、「白血病患者の闘病生活」についてお話ししていただきました。家族に患者がいないボランティアには、患者さんの入院中や退院後の生活、退院してからの就労問題等、知らないことばかりでした。様々な問題を乗り越えて沢山の患者さんが元気に退院していると聞き、ボランティアとして励まされる思いがしました。GVHDに関して、「移植の際HLAの型が合う方が必ずしも良いとは限らない」という話が印象的でした。(水元)

骨髄バンク NOW

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

(財団マンスリーJMDP(12月15日発行)より抜粋)

●11月の移植件数が過去最高に
本年11月の移植件数が126件で過去最高になりました。内訳は国内ドナー⇒国内患者:125件、国内ドナー⇒海外患者:1件です。今年の累計移植件数(1~11月)は1,109件で、年間で1,200件を超える見込みであり、過去最高のペースで推移しています。

●ドナー等休暇制度の実施
企業や団体等に勤務する方がドナーとなる場合、検査、入院等のために平日に休暇をとらなければなりません。ドナーの方の負担を軽減するために、財団では各企業に対して、必要な休暇を特別休暇として認める「ドナー休暇制度」の導入について働きかけを続けています。

一方、コーディネートの過程においては、ドナー本人だけでなく、ご家族も最終同意面談への同席や、施設によっては骨髄採取の際に待機を求められる場合があります。このたび、家族がドナー候補者となった東京都のある職員から、職員がドナーの家族として、最終同意面談等に同席するため休暇を取る場合に「ドナー等休暇」として制度化できないか、東京都に要望してほしいとの要請がありました。検討の結果、財団では「ドナー等休暇制度」として職員の家族が

コーディネートを受ける場合の対応を就業規程に定めました。また、公務員への導入について、東京都、人事院、総務省へそれぞれ要望書を提出しました。今後は企業に対しても、従業員がドナーとなった場合に併せて、従業員がドナーの家族としてコーディネートに協力する場合の休暇制度についても提案していく予定です。

<参考>財団法人骨髄移植推進財団就業規則より抜粋
(骨髄液提供休暇)
職員又はその家族が骨髄バンクを介した骨髄提供等を行う場合に、以下の各号のいずれかに該当し、当該職員から休暇の申し出があった場合は、必要な休暇を与える。
(1)職員が骨髄バンクドナーに登録するとき
(2)職員がドナー候補者または提供ドナーとして選ばれ、面談、検査、又は入院を行うとき
(3)職員の家族がドナー候補者として選ばれ、当該職員が最終同意面談に出席するとき
(4)職員の家族が提供ドナーとして選ばれ、当該職員が採取施設にて骨髄採取時の待機を行うとき

●ホセ・カレーラス クリスマス・コンサート
12月9日、今年で7回目となるチャリティコンサート「ホセ・カレーラス クリスマス・コンサート」が東京都港区のサントリーホールで中外製薬の協賛により行われました。世界三大テノールとして知られるホセ・カレーラスさんは、ご自身も骨髄移植により白血病を克服して歌手活動に復帰されており、このコンサートの収益金の一部は財団に寄付されます。また、会場では財団職員が骨髄バンクの普及啓発活動と募金活動を行いました。

●日本骨髄バンクの現状(平成21年11月末現在)

	10月	11月	現在数	累計数
ドナー登録者数	4,345	3,110	352,047	449,049
患者登録者数	179	243	2,527	29,002
骨髄移植例数	107	126	-	11,178
20歳未満ドナー登録者	-	237	11,126*	-
51歳以上ドナー	234**	101**	16,666**	-

注) 数値は速報値のため次月以降に訂正されることがあります。
*1) 17年3月~ *2) 51歳以上ドナーの延長数
*3) 51歳以上ドナーの新規登録数 *4) 17年9月~

●11月の区分別ドナー登録者数:献血ルーム/922人、献血併行型集団登録会/1,956人、集団登録会/124人、その他/108人